

# 確かな学力を育む一人一台端末の効果的活用

## ■研究指定・委嘱地域(指定校)

那珂川市教育委員会(安德北小学校、那珂川中学校)

遠賀町教育委員会(島門小学校、浅木小学校、広渡小学校、遠賀中学校、遠賀南中学校)

**研究の目標** 確かな学力を育むための一人一台端末の効果的活用の在り方について究明し、各教科等の事例紹介等を通して、県内における一人一台端末の効果的な活用を推進する。

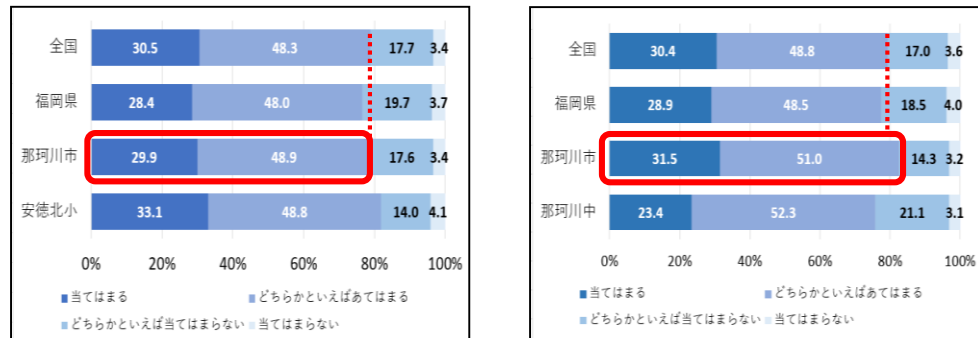
**研究の内容**

- 視点1: 児童生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育む各教科等における効果的な活用
- 視点2: 児童生徒のICT活用能力の育成
- 視点3: 全教職員のICT活用能力の向上
- 視点4: 効果的活用を図るための推進体制

### 那珂川市の成果

自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動して、よりよく問題を解決する力を育成できました。

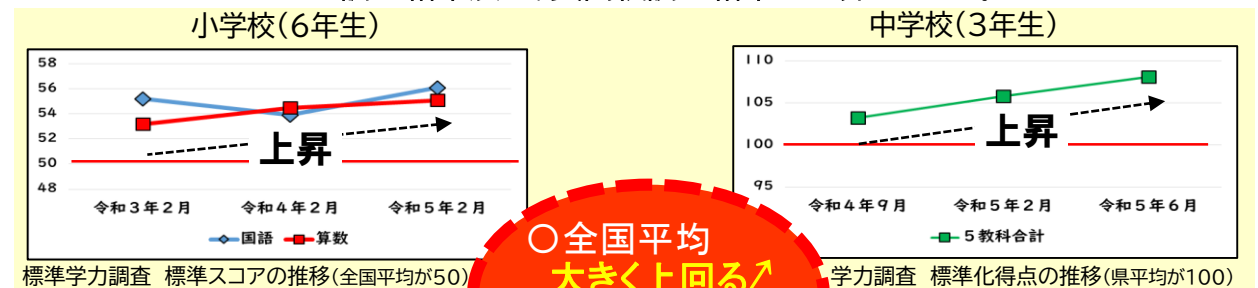
◇全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査(R5)  
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」



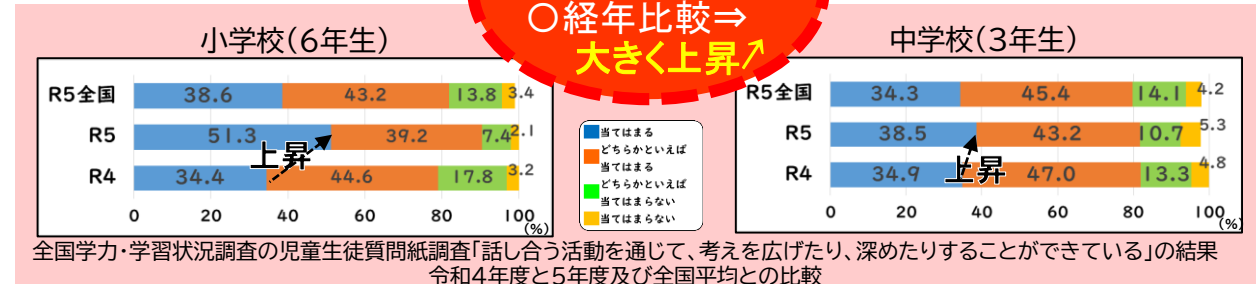
那珂川市の小・中学校とも、肯定的回答が、全国、県平均を上回っている。

### 遠賀町の成果

町内全小中学校において、一人一台端末を効果的に活用した思考を深める授業づくり等に取り組むことにより、学力調査の教科に関する調査結果及び、質問紙調査結果が上昇しました。



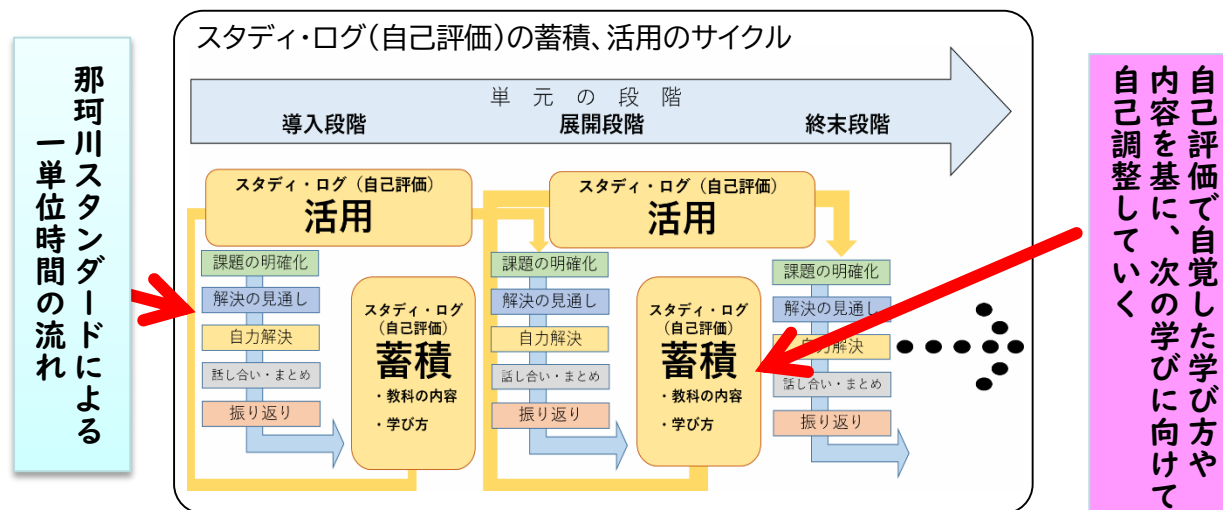
○全国平均大きく上回る↑  
○経年比較⇒大きく上昇↑



全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査「話し合う活動を通じて、考えを広げたり、深めたりすることができる」の結果 令和4年度と5年度及び全国平均との比較

### 那珂川市の研究ポイント

子どもが主体的に学ぶ単元デザインと個別最適な学びを実現するスタディ・ログの蓄積と活用サイクルを開発しました。



### 遠賀町の研究ポイント

児童生徒が端末を効果的に活用し、確かな学力を身に付けることができるように、「授業づくり」、「基盤づくり」、「小中連携した推進体制」を中心に研究を推進しました。



■ 視点1:各教科等における効果的な活用

那珂川市の実践

学習の「振り返り」の段階において、目標の達成状況や学び方を自ら評価し、スタディ・ログ(=学びの蓄積)として残すことで次の学びに生かせるようにしています。

【スタディ・ログの活用例】

自らの学びを調整する際に活用するスタディ・ログ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの授業の振り返りの記述</li> <li>・小テストの結果</li> <li>・デジタル教材の回答履歴、検索履歴</li> <li>・キャリア・パスポート</li> </ul>
学習内容や学習活動の蓄積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録した音声や動画のファイル</li> <li>・プリントやノート、板書を写真で撮ったもの</li> <li>・過去のノートや資料、デジタル教材の回答履歴</li> <li>・意見や考えを使って作成した資料</li> <li>・子供が作ったデジタル上の作品</li> <li>・作品を写真や動画で撮影したもの</li> </ul>
他者の考えの蓄積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果や共有した他者の意見</li> <li>・デジタル教材の回答履歴</li> <li>・意見や考えを使って作成した資料</li> </ul>



- 本研究では全教科等で共通して活用するスタディ・ログを「自己評価」と位置付けている。3年間の研究で、スタディ・ログ(自己評価)の蓄積、活用のサイクルを確立している。

■ 視点2:児童生徒のICT活用能力の育成

那珂川市の実践

授業におけるICT活用を円滑にするために、タイピングスキル向上を目的に、市教育委員会主催のタイピングコンテスト「やまもも杯」を実施しています。

【タイピングスキルの調査結果(令和4年10月)】

※5分間のタイピング文字数の平均

小学校		中学校	
安徳北小学校	505.3文字	那珂川中学校	477.8文字
那珂川市	394.8文字	那珂川市	388.4文字
全国平均(6年生)	297.0文字	全国平均(2年生)	302.0文字



タイピングスキルの向上により、授業でのICT活用の幅が広がります。

■ 視点3:全教職員のICT活用能力の向上

那珂川市の実践

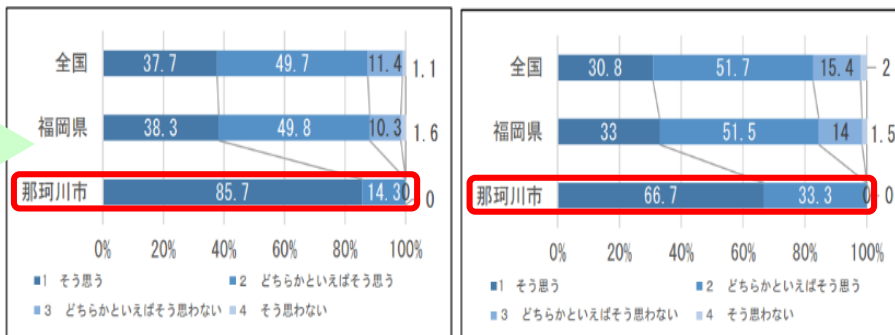
児童生徒の一人一台の端末の活用に当たり、教職員に一人一台のタブレット端末を整備するとともに、市内全教職員のICT活用能力向上に向け、ICTに関わる研修を実施しています。

【市主催の研修会】

研修名	主な実施内容や目的	対象者
新転任者ICT研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業場面や校務遂行上のタブレットの活用スキル向上</li> <li>・ICTを活用した校務の効率化</li> </ul>	転任者・初任者
市主催初任者研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業におけるICT活用について</li> <li>・アプリケーションの具体的な操作方法について</li> </ul>	初任者
ICTスキルアップ研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一人一人のICT活用のためのスキル向上</li> <li>・日常の学習指導力の向上</li> </ul>	希望者
デジタルシティズンシップ研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルシティズンシップの考え方・進め方</li> </ul>	全教職員

質問  
コンピュータなどのICT機器の活用に関して学校内外において、十分に必要なサポートが受けられていますか？

- 市全体の研修会や支援員の配置により、教職員のICT活用をサポートしている。



■ 視点4:効果的活用を図るための推進体制

那珂川市の実践

ICTを主体的・効果的に活用できる児童生徒の育成、教職員のICT活用能力の向上を図ることを目的とし、市教育委員会主催研修と各学校の校内研修を連携させ、組織的、計画的に取り組んでいます。

● ICT推進役員会

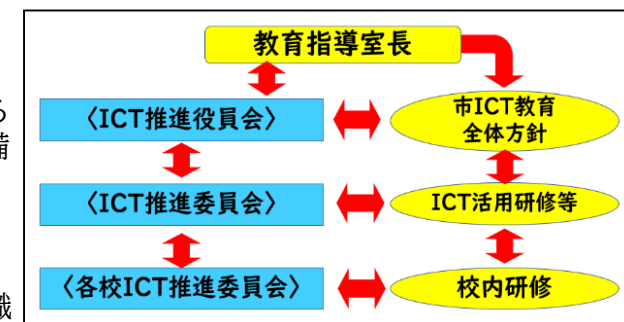
市全体のICT推進について全体方針や推進計画、推進指標などを作成する。また、JAETによる学校情報化先進地域の認定を受けるための準備などについても中心的に進める。

● ICT推進委員会

ICT推進委員会は、各小中学校のICT推進リーダー(主幹教諭)と市教育委員会担当で組織される。

● 各校ICT推進委員会

ICT推進リーダーや研究主任を中心とした委員会を組織し各校におけるICT活用を推進する。主に、ICTスキル向上や、ICTを活用した授業の推進に関する校内研修の計画や運営に携わる。学校によっては、ICT機器の活用に向けた若年教員の活躍の場としている。



### 視点1：各教科等における効果的な活用 遠賀町の実践

ICTを活用して授業を構想する際、学習のねらいを達成するために、特に端末を活用する「場面」「機能」「効果」の3つのポイントを明確にした授業づくりに取り組んでいます。



- 本町が、従来から実践している学びの連続・「思考の方法」を取り入れた学習過程の各段階に、「場面」「機能」「効果」の3つのポイントを位置付け、授業づくりを行っている。
- 課題解決の段階に、一人一台端末を活用し、思考を深める学習の流れである、「収集」「整理・分析」「発信」「話し合い」の4つの場面を設定している。

(例) 中学校第3学年国語科「俳句の可能性」

	課題把握	課題解決 <small>収集 整理・分析 発信 話し合い</small>	振り返り
<b>場面</b>	前時までの学びを確認する。	友達の俳句作品を鑑賞・批評する。	批評コメントを整理し、学びを実感する。
<b>機能</b>	共有ノート機能 前時のテキスト	共有ノート・テキスト機能 (ふせん・Web資料)	テキスト機能・提出アンケート
<b>効果</b>	課題を把握し、学習を見通す。	言葉や表現の工夫を試行 操作し批評の根拠とする。	批評の意義を全体に 広げ、学びを深める。

### 視点2：児童生徒のICT活用能力の育成 遠賀町の実践

「ICT活用能力一覧表」を作成し、児童生徒の実態から育成を目指すICT活用能力を明らかにして、継続的にICT活用能力を育成しています。

資質・能力	項目
知識及び技能	端末操作、端末の働き、情報を集めること、集めた情報を使うこと、端末の役割や影響、情報の大切さ
思考力・判断力・表現力等	情報をまとめること、情報から新しい考えを持つこと、情報を伝えること、情報を使うことを振り返ること、情報の見方
学びに向かう力・人間性等	計画をよりよくしようとする、情報を正しく扱うこと、端末を使おうとする

【ICT活用能力一覧表に示されている資質・能力とその項目】

- 児童生徒のICT活用能力を、資質・能力の3つの柱に分類し、3つの柱を複数の項目に整理している。さらに、各項目は、小学生(低学年)(中学年)(高学年)、中学生に分け、「ICT活用能力一覧表」に示している。
- 「ICT活用能力一覧表」を基に、ねらいを明確にして、1単位時間や帯時間における実践を継続している。

(例)「思考力・判断力・表現力等」の「情報を伝えること」の項目に関する内容

<b>情報を伝えること</b>	<b>活用する機能</b>	<b>写真、動画撮影機能</b>
小学生(中)	育成をめざすICT活用能力	活動の様子を動画として残すことで、動きのポイントや変容を客観的に確認したり、修正したりすることができる。
中学生		
相手がわかりやすいように調べたことをまとめることができる。		

※他にも、プレゼンテーション機能、Web検索機能等についても実践を継続している

### 視点3：全教職員のICT活用能力の向上 遠賀町の実践

「教員のICT活用指導力チェック表」(文部科学省)を参考にチェック表を作成、活用し、教職員のICTを活用したり指導したりする能力を高めています。

A	教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力
B	授業にICTを活用して指導する能力
C	児童生徒のICT活用を指導する能力
D	情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力

【教員のICT活用指導力チェック表】  
※ A~Dの各能力を、さらに4つの内容に分けて示されている。

- チェック表をもとに、校内研修、小中合同研修会をととして**教員が身に付ける能力を明確にし、目的意識を高めて研修会を実施している。**
- 校内研修、小中合同研修会の年間計画をもとに、各研修会を毎週定例、長期休業中等、計画的に実施している。

各研修において、教員が身に付ける能力を明確にする

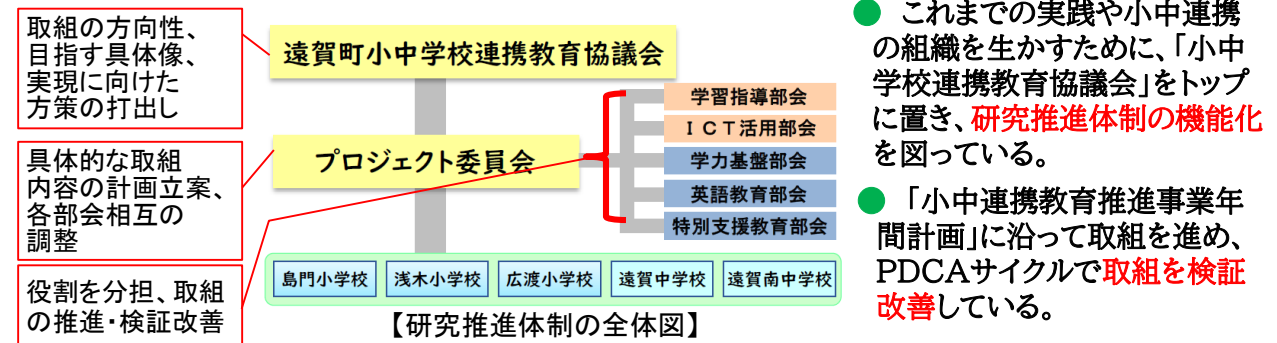
<b>校内研修</b>	<b>小中合同研修会</b>
○校内ミニ研修 ○ICT支援員による講習 ○熟達した教員を講師とした講習 等	○指導案検討会 ○公開授業 ○実践交流会 等

**研修による授業力、ICT端末活用技能の向上**



### 視点4：効果的活用を図るための推進体制 遠賀町の実践

確かな学力を育むための「目標」や「内容・方法」を「全員」で共有し、町内すべての学校職員で研究に取り組む研究推進体制を構築しています。



- これまでの実践や小中連携の組織を生かすために、「小中学校連携教育協議会」をトップに置き、**研究推進体制の機能化**を図っている。
- 「小中連携教育推進事業年間計画」に沿って取組を進め、PDCAサイクルで**取組を検証改善**している。

プロジェクト委員会  
※福岡県重点課題研究推進連絡協議会

■プロジェクト委員会(17日、26日)  
・組織編成、事業計画及び研究内容の確認  
・研究理論、内容、方法等の検討  
・3年次最終報告会の内容等  
・連絡協議会内容及び運営計画の検討  
・今年度小中合同研修会の内容検討

■プロジェクト委員会(2日、12日、16日)  
・第1回協議会進捗状況確認等  
・第1回合同研修会運営計画等検討

◇連絡協議会26日 浅木小学校  
□第1回小中合同研修会

【遠賀町小中連携教育推進事業年間計画】